

令和6年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立葛飾野高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任養護教諭（総務部主任）＝事務局長 1名
- (3) 内部委員の構成 副校長、経営企画室長、主幹教諭、主任教諭 計7名
- (4) 協議委員の構成 公的機関代表、近隣中学校長、近隣自治会関係者
保護者代表、同窓会代表 計6名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1回から第3回まで）の開催日、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月20日（木）内部委員7名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の委嘱、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、協議・意見交換
 - 第2回 令和6年11月14日（木）内部委員5名、協議委員5名
授業公開、各分掌・学年等の中間総括説明、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価
アンケート実施及び同アンケート（案）の内容検討、協議
 - 第3回 令和7年2月14日（金）内部委員7名、協議委員5名
各分掌・学年等による総括説明、学校評価アンケート報告及び学校運営に関する意見・提言、
協議等
- (2) 評価委員会の開催日等
 - 第1回 令和6年6月20日（木）内部委員2名、評価委員2名
評価委員委嘱の説明、今年度の活動計画の検討、協議
 - 第2回 令和6年11月14日（木）内部委員2名、評価委員2名
学校評価アンケート案の内容及び実施方法等の検討、協議
 - 第3回 令和7年2月14日（金）内部委員2名、評価委員2名
学校評価アンケート結果原案の検討、協議

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：922人 回収：756人 回収率：82%
 - ・12月 保護者全員 対象：922人 回収：424人 回収率：46%
 - ・12月 近隣住民 対象：40人 回収：29人 回収率：73%
 - ・12月 教職員 対象：52人 回収：51人 回収率：98%
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、LWBの推進
- (4) 評価結果の概要
 - ・地域の本校生徒への肯定的評価は積極性93%、迷惑なし90%と高かった。葛飾野新聞の配布、横断幕の掲示、部活動による清掃活動など、地域に向けた活動の活発化が主な要因として考えられる。
 - ・保護者の回答率が40%から46%へ増加した。Classiなどの利用率向上が今後の課題である。
 - ・保護者回答の項目で昨年度比もっとも増加したのは補習・講習への取組で8ポイント増加した。生徒の家庭学習時間や学力向上については生徒や教員の意識に比べるとさほど高くない。
 - ・生徒の回答で肯定的評価のうち最高は、帰属意識89%だった。補習など学習指導に関する評価が向上。
 - ・教職員の肯定的評価は、学力向上に向けた教科指導98%、教育相談体制98%の他、生活指導に関する指導体制の評価が高い。昨年に比べて特に学習指導に関する評価が大幅に向上している。
- (5) 評価結果の分析・考察
保護者の「入学させたこと」への肯定的評価は90%、生徒の「入学したこと」への肯定的評価は87%といずれも昨年よりも2～3ポイント向上した。「帰属意識」では保護者91%（昨年度88%）、

生徒89%（昨年度90%）となっており、全体的に高い満足度が伺えた。

生活指導や学習指導について教員の肯定的な回答が高いのに対し、生徒の回答はマッチしている部分が多くみられるが、保護者の意識としてはまだ十分な成果が出ていると感じていない。要因としては、学校での取り組みが十分に保護者に伝わっていない可能性がある。学校広報活動については、対外的なものだけでなく、保護者に向けても工夫が必要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・協議委員から本校の課題や問題点、改善点について、具体的な質問や建設的な意見・提言を受けられた。
- ・正門前の掲示板を新しくし校内の様子を伝える葛飾野新聞を掲示し、地域の皆様に配布したことが、地域の方に学校の情報を伝えることにつながった。地域の掲示板等への掲示を検討することとなった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・自転車通学の生徒が多い中、交通ルールを遵守しての通学が徹底されれば、近隣住民等の安心・安全につながり、地域の学校全体に対する更なる肯定的評価につながる。
- ・学校評価アンケートの生徒の回答については、複数の間でおおむね数値は高めではあるが、生徒が自ら目標を立て、困難に打ち勝ち、達成に向けて活動が継続できるよう指導していく。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・生徒、保護者に教育目標等を積極的に周知し、一層、教育活動への理解と協力を得られるようにする。
- ・これまで以上に地域から大切な存在と評価されるよう、よりよい教育活動の実践に努める。
- ・生徒の「入学してよかった」の肯定的評価の更なる割合向上を目指し、教育活動の更なる工夫改善を図る。

(2) 学習指導

- ・アクティブラーニングの視点を取り入れた授業改善への取組を継続し、生徒の主体的な学びを引き出す。
- ・授業外学習時間の習慣を身に付けさせるためにも、キャリア教育と結び付け、学びへの内発的動機付けを高めさせる。
- ・放課後講習、外部模試活用の在り方を見直し、新たな学力向上施策の推進に取り組む。

(3) 生活指導

- ・生活指導の一層の充実には保護者や地域の理解と協力が必要である。校則は、学校生活を送るに当たり、必要かつ合理的な範囲で定めた学習・生活上の規定であることを理解してもらう。

(4) 進路指導

- ・「葛飾野の進路指導」の定着と質的向上を図っていく。学年と進路部による丁寧な個人面談を継続する。
- ・生徒、保護者には計画的に適時・適切な進路情報を発信し、一層生徒の進路実現への意識啓発を図る。

(5) 特別活動

- ・ホームルーム活動、学年集会等の充実を図り、生徒のクラスや学年、学校への帰属意識を涵養する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 6人

(2) 学校がよくなったと（「どちらかといえばそう思う」を含む）答えた協議委員の人数 6人

そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
6	0	0	0	0	0

7 職員会議、企画調整会議等への協議委員の参加実績

- ・令和6年6月20日、11月14日に協議委員による『授業参観・部活動見学』の実績あり。

8 その他

- ・学校評価アンケートの回収については、保護者と地域からの回収率が課題である。
- ・地域、保護者による学校評価の精度を上げるため教育活動に係る情報発信の一層の工夫改善に努める。